クロアチア共和国イストラ半島ウマグの保育と小学校

中西　綾子

なぜクロアチアか？

ナニーという仕事をしている。子どもの家庭内保育・教育を行う仕事であり、日本語で言えば「乳母」のイメージが近いだろうか。私は英国のナニースクールを出て、日本生まれのロシア人の 7 歳男児のナニーを彼が生後 50 日の時からしている。彼らが 2 年前にクロアチアに越してからは、年に数カ月ナニーとしてクロアチアの彼らの家に住んでいる。

生活は日本語と英語とロシア語とクロアチア語とそしてイタリア語が入り混じっている。身振り手振りと表情で地元の人と意思疎通をしたり、友人になったりしている。子どもを保育園や小学校に送迎し、学校の行事に参加し、一緒に毎日の宿題に格闘している。子どもにとっては赤ちゃんの時からのナニーであり、日本語の先生であり、剣道の師匠であり、友人なのだと思う。

クロアチアのアドレア海に面した小さな町の生活で、保育園や小学校の様子、またクロアチアなのにイタリア語を使う生活の様子などをご紹介したい。

クロアチアのウマグ

クロアチア共和国（以降クロアチアという）は、ユーゴスラビアの崩壊を経て 1992 年に国連に加盟した新しい国である。ユーゴスラビア内戦が終結したのは 1995 年で、人々の中には戦争体験がなまなましく残っている。

（イストラ半島は西北部にある）

（朝漁から戻った漁師と値段を交渉する人々）

イストラ半島はハート形をしてアドレア海に突き出ている。ウマグ（Umag）町はイストラ半島最北の町で、スロヴェニアとの国境に接し、クロアチア最西端の地点もある町である。人口は約 1 万人の多民族の町で、人種はクロアチア人 59.6%、イタリア人 18.3%、スラブ人 3.8%、スロヴェニア人 2.2%、ボスニア人とアラブ人がそれぞれ 1%程である。

クロアチアは 19 世紀にオーストリアハンガリー帝国になるまで、北部は 15 世紀以降オスマン帝国、ダルマチアは 10 世紀以降ヴェネチア共和国であった。こうした歴史が現在のクロアチアの学校制度にも影響している。その例として、ヴェネチア帝国からの長きにわたる現在のイタリアの影響を、イストラ半島のウマグ町に具体的に見ることができる。
ウマグは歴史的にイタリア人が多いことから、公立の学校教育としてイタリア語の学校とクロアチア語の学校が両方あり、選択できるという特色がある。

町には、古代ローマ遺跡やヴェネチア帝国時代の史跡が多くみられる。1 年のうち 5 か月間海水浴が可能なこともあり、小さな町ながら保養地としてドイツやスイス、ロシアからの観光客が多い。その影響で観光シーズンに集中して働く季節労働を生業とする人も多くみられる。

（ウマグにあるローマ時代の遺跡：クロアチアは世界遺産の宝庫）

クロアチアの教育制度の概要

クロアチアの教育行政は、科学教育スポーツ省があたる。日本の教育委員会のような組織はなく、学校は科学教育スポーツ省の直轄管理下にある。

学校年度は 9 月 6 日～6 月 15 日の 2 学期制で、1 学期は 9 月 6 日～12 月 23 日、2 学期は 1 月 10 日～6 月 15 日である。

就学年齢は 6 または 7 歳で、就学年齢基準は、その年の 4 月 1 日までに満 6 歳になる者

は同年の 9 月に入学することが基本になっている。義務教育は小中学校で 6 歳～13 歳、1 年生～8 年生。就学率は約 96%である。義務教育は無償である。しかし、教科書は有償、その他の費用として希望者に給食が有料で提供される。就学前保育は、公立の保育施設に、生後 12 カ月から入所できる。少数だが生後 6 カ月から入所できる所もある。幼稚園に通っていない子どもは、小学校に通う前の 5 歳になってから、幼稚園の準備コース（週 2 回×3 時間）通わせることができる。
しかしながら教育制度は地域によって若干違いが見られる。

ウマグの保育園

ウマグでは、保育園は 1 歳から 3 歳までの乳児の園と、4 歳から就学までの幼児の園がある。保育園は公立で、入園希望者は役所に申請する。そして、どの園に通うか決定が通知される。現状では待機することはないが、入園希望者が多数でどの保育園も定員いっぱいのために、どの園に通うか保護者は選べない。役所では希望の話は聞いてくれるが反映はされにくいのが現状である。空いている園を紹介され、そこに通う。そうしたことから、子どもが複数いる場合、兄弟で違う保育園に通うことが一般的に起こっている。その場合保護者は保育園をはしごして子どもの送迎することになる。

希望者の増加による不足から近年保育園が新設されている。軍事武器庫に使われていた廃墟が保育園に改築されている。役所によると、保育園を新築した方が費用は安く済むが、石造りの昔の建物をあえて使用したかったということであった。

保育園は朝 7 時～17 時の開園している。しかし相談でもっと早く預けることもできる。親の就労時間に合わせて子どもも保育園に登園する。ウマグは海岸の保養地のため、観光客が多い春～秋と、冬では人々の労働時間も多少変化するため、保育園に子どもを預ける時間にも変化がある。一般的な例として、二人の子どもをもつ建築家をみてみると、就業時間は 8 時から 15 時まで。そのため出勤前と帰宅時に合わせて、子どもは 7 時半頃から 15 時半頃まで保育園に通う。姉妹が違う保育園に通うため、時には子どもの母親と分担して 2 か所を送迎する。保育園は 15 時を過ぎると子どものお迎えラッシュが始まり、17 時には子どもが一人いるかいないかの状態となる。

保育園では保育の間に、朝食・午前おやつ・昼食・午睡・午後おやつの時間がある。提供される食事内容の例をみると、朝食はドーナツ、パン、コーンフレークなどとフルーツ茶。午前と午後のおやつにはプチベアクッキーやバタークッキー、スナックなど。昼食はスープ、パスタ、サラダなどが提供される。

（パジャマに着替えてお昼寝：保育園で）

保育料は 1 か月約 600 クーナ（約 10800 円。2013 年 5 月現在 1 クーナ約 18 円）。お昼寝前に帰宅する半日コースはひと月約 500 クーナ（約 9000 円）。午後おやつ代のみ実費徴収され、ひと月 10 クーナ（約 180 円）ほど。
その他保育園によって、財政難なので協力して下さいということで、お絵かきや工作用の紙、ティッシュペーパー、ウェットティシュ、キッチンペーパーの現物の寄附を任意で求められる場合もある。

ウマグの小学校就学の選択

ウマグではまず大きな選択として、クロアチア学校に行くかイタリア学校に行くかを決定する。両方ともクロアチア共和国の正式なカリキュラムによる無償の義務教育である。最大の違いは、同じ内容の勉強をクロアチア語とイタリア語のどちらで学ぶかという事である。

クロアチアのイタリア学校はイストラ半島内と近郊に 8 か所ある。そのどこも歴史的にイタリア人が多く住む地域である。同じ理由で、ハンガリーとの国境沿いにはクロアチアの学校としてハンガリー学校がある。
ウマグのイタリア学校は小中学校までで、高校はスクールバスで 30 分ほどの所にある。

保育園にもクロアチア保育園とイタリア保育園があり、通常は保育園に通う子どもがそのままそれぞれの小学校に就学する。どちらに決定するかは、それぞれの家庭で決定するが、特に大きな混乱はなく決定する様子である。

クロアチア語とイタリア語のどちらの学校に就学するか決めたら、次には何歳で就学す

るかという選択が待っている。クロアチアの小学校就学年齢は 6 歳または 7 歳である。5 歳になり就学年齢に近づくと、役所から案内が届き、子どもは学校の心理カウンセラーとの面談を受ける。その結果をふまえた上で、本人と保護者の意向を尊重して、入学を 6 歳にするか 7 歳にするか決定する。

（イタリア小学校）

ウマグの小学校クロアチア学校とイタリア学校の違い

クロアチア学校とイタリア学校の人数の違いを見ると、ウマグの場合 2013 年現在、クロアチア学校は 25～30 人学級が 5 クラス。イタリア学校は 18 人学級が 3 クラスとなっておりイタリア学校を選択する家庭は少数派である。

学校で使用される教科書は内容が全く同じで、言語だけが異なっている。ともに学校教育は無償で、教科書は有償である。

両校ともクロアチアのカリキュラムに依るが、教育内容と時期に若干違いがある。

コンピュータ(情報)の授業はイタリア学校では 1 年生から、クロアチア学校は 4 年生から。

英語の授業はイタリア学校では 1 年生から、クロアチア学校は 2 年生から。

さらにイタリア学校では 1 年生からイタリア語の授業もあるので、クロアチア学校に比べて、1 年生から授業数が多い。

具体的に 1 年生をみると、イタリア学校が 2 時頃学校が終わるのに対して、クロアチア学校は 11 時半～12 時に終了する。クロアチア学校は、放課後のスポーツクラブが充実している。安い月謝で、学校で合気道など様々なスポーツ教室があり、多くの子どもが何かのクラブに通っている。

イタリア学校は 2 時頃学校が終わり、各教科それぞれに毎日宿題が出されるため、放課後は宿題に時間が費やされる。

ウマグのイタリア学校の子どもの生活

朝 7 時半登校。ほとんどの子どもが親と通学するが近所に住む子どもは一人で登校する。

親に送迎の義務はない。イタリア学校がない近隣の町からは乗り合いのスクールバス登校する子どもも少数いる。送迎した保護者は、子どもを校舎に入れたら出て行くが、教員と個別に話したい人は残って学校が始まるまで待つ。

登校した子どもは、学校の校舎のロビーで全校生徒が待つ。7 時半頃になるとボランティアの人が子どもをクラスごとに整列させる。

（ロビー）

7 時 40 分、ベルとともにロビーに教員が迎えに来て列になって教室に向かう。教室に入った時から授業が始まる。教室の前の廊下の靴置き場で自分の運動用の置き靴と履き換え、体操服類を入れたバッグや着てきた上着を自分のフックに掛ける。フックには各自の名前とキャラクターのシールがそれぞれに貼ってある。ちなみに、1 年生の教室のそのシールは、男児が犬のスパンク、女児がハローキティだった。両方とも日本生まれのキャラクターと話したら子どもは驚いていた。TV でアニメが流れたりして子どもにとって身近なキャラクターであった。

学校生活はすべてイタリア語で行う。子ども同士が無意識でクロアチア語で話している事があるが、教員が指摘すると子どもたちはすぐにイタリア語に変換して話し出す。子どもにとっては、どちらも身についているので、「イタリア語にしなさい」といわれるとすぐに変換できる。

学校ではパンと牛乳などの朝食と、パスタとサラダとフルーツなどの昼食が出される。8 時半ごろに学校で朝食があるため、子どもたちは家では、牛乳やヨーグルトなどの簡単なものを口にしただけで登校する。

1 年生の授業は、月・火・木曜が 5 限、水・金曜が６限まである。授業科目は、イタリア語、英語、クロアチア語、コンピュータ（情報）、理科（自然）、算数、音楽、体育、図画

工作（デザイン）、宗教がある。

１年生の時間割

	月	火	水	木	金
1時間目	イタリア語	算数	理科	算数	イタリア語
2時間目	イタリア語	英語	イタリア語	イタリア語	体育
3時間目	英語	体育	算数	クロアチア語	クロアチア語
4時間目	理科	イタリア語	クロアチア語	クロアチア語	算数
5時間目	体育	音楽	宗教	情報	デザイン
6時間目			宗教		OCC

教科書はＡ４サイズのカラー版で、各教科に教科書と問題集などの別冊とそれぞれのノートがある。宿題が毎日各教科から出されるため、全てを毎回持ち帰る必要がある。そのため子どもの通学鞄は１年生でも驚くほど重い。嵩も大きいため、日本の子どもが林間学校に持参するような大型のリュックサックや、小学校高学年になるとキャスターバックをひいて登校している。低学年の子どもが持てる重さを越えており、保護者の送迎は荷物持ちとしても必要になっている。

イタリア学校では、遠足にしばしばイタリアにでかける。遠足は実費で、イタリア（EU）入国のパスポートやビザは各自の責任で用意する。例えば、日帰りで夏の山登り、一週間泊まりで冬のスキーなどがある。

学校は夕方１７時まで延長が可能である。この時は担任ではない、教員が学童クラスの先生となり、子どもに宿題をさせ、分からない点など個別に指導する。15 時頃におやつの時間があり、バナナ 1 本やマフィン 1 つなどが出される。学童が安価なので多くの子どもが利用して宿題を学校で済ませている。それでも宿題の教科が多いため、半分ほどは残し持ちかえることになる。学童は 17 時まで開いているが、実際は 16 時を過ぎるとほとんどの子どもが帰宅する。

ウマグの小学校の特色

ウマグでは子どもの就学先をクロアチア小学校にするかイタリア小学校にするかという選択と、何歳で子どもを就学させるかという 2 つの大きな選択をすることは先に述べた。

その過程で日本と異なると感じた点がいくつかある。日本では、子どもに早くから良い教育環境を与えたいと考えるのが一般的だと思う。しかしウマグでは、日本と同じように考え 6 歳で就学させる保護者がいる一方で、早い年齢から学校に行かせて、まだ幼くて理解できずに勉強についていけなくなるよりも、理解力がついてから入学して常に好成績を目指した方が子どもの自信につながり心の成長に良い、という考えから 7 歳入学を選択することもまた一般的である。

そしてもう一つ、来年度 1 年生を担任する教員の名前もまた就学決定の判断材料になっている。この教員に担当してもらえるから、今年入学させようという判断である。一般的に小学校の低学年の間は同じクラスで担任教員もずっと持ちあがりで進級していく。その

ため、1 年生でどのような担任に当たるかは子どもにも保護者にも大きな問題である。小さな町だから来年度の教員の個人名まで必然的に分かってしまうのである。教員の人気によって入学する子どもの数まで変化する事態は日本では起こりえない。

クロアチアでは日常で人々が人種や戦争の事を口にすることはめったにない。ウマグでもいろんな人種の人が自分の人種に誇りをもちながら、クロアチア国民として共に生活している。教育についても、クロアチア人はユーゴスラヴィア時代から自国の教育レベルは高いとクロアチア学校に誇りをもっている。そしてイタリア人もまた国籍はクロアチアであるが、代々家族に受け継がれたイタリアの家族の絆を大切にし、イタリア学校に誇りをもっている。

クロアチア学校は生徒が増えたため校舎に入りきらず、イタリア学校の教室や校庭の一部を共有している。しかし校庭は真ん中がフェンスで区切られ、イタリア学校とクロアチア学校の生徒用が分けられている。保育園でも、大型のクロアチア保育園の一部を部分的に、イタリア保育園にしている所もあるがここも扉で区切られている。

終わりに

クロアチア学校とイタリア学校のどちらに行く子どもも保護者も互いに日常的に触れ合い、友好的に共に生活している。しかしながら、ウマグで通算 5 か月生活し学校に 2 カ月通ううちに、差別でなくとも区別はあると感じた。

小学 1 年生の入園セレモニーは役所の主催で市のホールでクロアチア学校とイタリア学校の 1 年生合同で行われた。12 月のクリスマス学芸会もまた同じ場所で合同で行われたが、その際はステージに並ぶ際に 1 列ずつクロアチア学校とイタリア学校の子どもたちが交互になっていた。市役所の教育担当者のスピーチからも、両方の学校の友好関係をなんとか維持していきたいという努力が、伝わってきた。

区別はあっても差別や偏見はなく共に生きている町ある。しかしそれは陰で必死な努力に支えられての賜物なのかもしれないと感じた。

終わり

（おり紙を教えました：中央が筆者）